

支援業務課 NEWS

牛群管理は酪農経営データベースで

本協会で実施している「担い手集中経営支援体制整備事業」において、酪農経営者及び支援組織向けに開発した「酪農経営データベース」に加入することにより、日常の乳牛繁殖管理や牛群検定データの加工分析、さらには経営管理・分析等がパソコンで出来るようになりました。概要は以下のとおりですが、現在、加入申込みを受け付けておりますので、多くの方々からご参加頂けますようお願い申し上げます。

1. 酪農経営データベースの概要

これまで様々な畜産関係団体に分散していた各種の畜産情報を統合し、総合的な情報としてコンピュータネットワークを通じて迅速に提供するためのデータベースです。

(1) 酪農データベースに蓄積するデータ

当面は、中央酪農会議の「全国基礎調査結果」、家畜改良事業団の「牛群検定成績」、中央畜産会の「経営診断結果」が蓄積されますが、今後、乳牛個体識別データや衛生関係データ等の蓄積も予定されています。

(2) 利用するコンピュータネットワーク

酪農経営体の個人データを扱うことからセキュリティを万全なものとするため、NTT-PCコミュニケーションズが提供しているNNCS (NTT Network Connect Services) を利用し、ユーザを限定したID (個人認証番号) とパスワード管理により信頼性の高いクローズドネットワークが構築されています。

2. 酪農経営データベースの機能とサービス内容

機能は大きく分けて、酪農データベースから各種の情報を入手する機能と入手したデータを自分のパソコンで分析する機能があります。提供するシステムとサービス内容は以下の通りです。

(1) 酪農全国基礎調査検索分析システム

- ① 基礎データの絞り込み検索集計機能
- ② 検索結果のグラフ表示機能
- ③ 組み替え集計機能

(2) 牛群管理分析システム

- ① 個体管理・繁殖管理機能
- ② 牛群検定成績の分析機能
- ③ 生乳生産予測機能

(3) 酪農経営分析システム

- ① 経営技術及び経営収支分析機能
- ② 追加投資の検討機能
- ③ 短期経営シミュレーション機能
- ④ 長期経営シミュレーション機能

3. 酪農経営データベースで利用できるパソコン

- (1) OS Windows 95以上
- (2) メモリー 32MB以上
- (3) ハードディスク空容量 100MB以上
- (4) モデム、ターミナルアダプター、ルーターのいずれか必要

4. 酪農データベース加入費用

本事業で配布する分析プログラムを含め事業加入費は当面無償ですが、パソコンを利用してNNCSに加入する場合は、以下の費用が必要となります。

- (1) NNCS加入費用 (初回のみ) 5,000円
- (2) NNCS請求書発行費用 300円/月
- (3) 認証時固定IPアドレス付与 100円/月
- (4) NNCS接続費用 (以下より選択する)

プラン名	月接続時間	料金	プラン名	月接続時間	料金
プラン1	1時間まで	600円	プラン5	8時間まで	3,000円
プラン2	2時間まで	800円	プラン6	20時間まで	5,000円
プラン3	3時間まで	1,000円	プラン7	30時間まで	8,000円
プラン4	4時間まで	1,800円	プラン8	無制限	10,000円

注) 1. 接続時間を超過した場合9円/1分の超過料金が必要
2. プラン8の場合はISDN回線での接続が必須

- (5) NNCSアクセスポイントまでの電話料

5. 酪農データベース加入手続き

酪農経営者でパソコンを持っていない場合でも、支援組織が代行出力を行いますので、全ての酪農経営者、支援組織が酪農データベースに加入できます。加入希望者またはもう少し詳しい事業内容をお知りになりたい方がございましたら、支援業務課までお問い合わせ下さい。

畜産経営セミナー開催

去る8月2日、新潟市「ハミングプラザVIP」にて畜産経営セミナーを開催しました。講師に財団法人 畜産環境整備機構 本多勝男審議役と北栄産業(養鶏経営)市村栄宗専務取締役を迎え、県・市町村・農協の畜産担当者、畜産経営者など約120名の参加者があり大盛況のうちに幕を閉じました。

本多氏からは、堆肥化の基礎から堆肥の流通技術、耕種農家への説得・宣伝方法など、堆肥に対する意識レベルの向上につながる話をして頂きました。

一方、市村氏は、安全性や周囲の環境保全を徹底した卵の品質管理を行っており、独自改良鶏舎やパソコン管理システム等、先進的な話がありました。

参加者からは、「知識と意識のレベル上昇になった。」「畜産経営者としての理念など学ぶ点が多く勉強になった。」等の意見が多く、とても有意義なセミナーであったと感じています。



本多氏「家畜ふん尿処理の基礎について」



市村氏「システム化した畜産経営管理と環境保全の取り組み」

新潟県におけるふん処理技術

～雪国での処理方式の考え方～

前号では、尿処理技術について紹介しましたが、今回はふん処理技術について紹介します。

(1) 新潟県の気象条件

新潟県の特徴として積雪及び圃場条件の悪化により、中山間地では12月から4月下旬、平場でも4月上旬まで堆肥の散布及び耕耘が困難です。また、春と秋の年2回に堆肥需要が集中すること、完熟堆肥でも流出しない屋根の下の管理が法的に必要なことから、4～5ヶ月間貯蔵できる施設がないと「家畜排せつ物法」のいう野積みは解消できません。

また、冬期は日照時間が短く、低温・高湿度となり太陽エネルギーによる堆肥表面からの蒸散はほとんど期待できません。逆に夏期は日照時間が長く、高温・低湿度となりますが、家畜の飲水量が増えて処理対象ふんの水分が上昇します。

(2) 処理方法の検討

乳用牛・肉用牛・豚のふん中の易分解性有機物割合を、堆肥舎処理方式の場合(月1回切り返し)で計算すると約4.4ヶ月で堆肥化できることとなります。このことは、冬の間家畜ふんを屋根の下に置くのであれば、多大な初期投資とランニングコストを必要とする強制発酵施設ではなく、一般の堆肥舎での切り返しによる堆肥化で十分であることを示しています。

よって、まず中央畜産会の堆肥化施設設計マニュアルにより堆肥舎及びエアレーション堆肥舎の設置を検討し、次に下記の条件の場合のみ強制発酵施設設置の検討を行うことをお奨めします。

- ① 処理ふん量が大量でありローダーでの切り返しが困難な場合
- ② 土地面積に制約がある場合
- ③ 袋詰めでの販売が必要な場合
- ④ 副資材(モミガラ、オガクズなど)の入手が困難で、戻し堆肥を利用する場合
- ⑤ 悪臭公害の回避策として、特定の時間帯での切り返しが必要な場合